

# 韓国大手新聞社の放送事業本格参入から1年

～「総合編成チャンネル」はいま～

メディア研究部 田中則広

韓国では1980年に、当時のチョン・ドゥファン（全斗煥）政権が言論の統廃合を断行して以来、30年近くにわたって、新聞と放送の相互所有が法律で禁止、あるいは制限されてきた。しかし、経済の再生・活性化を大義名分に保守系のイ・ミョンバク（李明博）政権は、所有規制の緩和を図り、その結果、全てのケーブルテレビや衛星放送での送信が義務づけられている「総合編成チャンネル」に、政府の許可を得た保守系の手新聞社4社が進出した。

これら総合編成チャンネルの編成表を分析すると、かつて、報道分野の放送番組を専門的に編成するチャンネルであった頃の実績を活かして、他チャンネルとの差別化を図っているチャンネルがある一方で、サッカー国際試合の単独中継やドラマの独自制作など、話題性のあるコンテンツによって視聴者の獲得を目指しているチャンネルがあるなど、スタートから1年を経過した現在、それぞれが独自のスタンスで生き残りを図っている姿が考察された。

しかし、問題点も浮かび上がった。韓国政府による事業者の選定にあたっての審査の不透明性と、過当競争による各社の今後の行方についてである。とりわけ、今後の行方については、平均視聴率が2011年12月の開局以降、1%に満たない状況が続く中、韓国のメディア研究者からは「投資がないため良い番組が出てこず、視聴率が落ちて、広告が集まらないという悪循環に陥っている」と、場合によっては総合編成チャンネルからの撤退も選択肢として考えるべきであるといった指摘まで出ている。

今後の事業の継続については、総合編成チャンネル各社の努力もさることながら、過当競争のリスクがある中で、一度に4社に許可を与えた韓国政府が責任をもって、政策を再検討する必要がある。

## はじめに

2013年2月、イ・ミョンバク（李明博）政権の後を受け、引き続き、保守系のパク・クネ（朴槿恵）新政権がスタートする。イ・ミョンバク大統領は任期を終えるが、これまでの5年間をメディアとの関係で振りかえると、経済の再生・活性化を大義名分に掲げ、メディア業界の構図を大きく変えようとしたことが読み取れる。ケーブルテレビの「総合編成チャンネル」新規導入もその一例である。

韓国では2011年12月、大手新聞社4社（朝鮮日報、中央日報、東亜日報、毎日経済新聞）が放送事業に進出し、ケーブルテレビの総合編成チャンネルがスタートした。1980年に、

当時のチョン・ドゥファン（全斗煥）政権が言論機関を統制する一環として「言論統廃合措置」を断行して以降、30年近くにわたって新聞と放送の兼業が法律で禁止されてきたが、経済の再生・活性化を掲げる与党の主導により、メディア業界においても2009年7月、新聞法や放送法などの「メディア関連法」が改正され、新聞社の放送事業進出が可能になった。そして、保守系のイ・ミョンバク政権は、放送界の中核を成す地上放送3社（KBS、MBC、SBS）の「ライバル」として、保守系大手新聞社が運営する4社を選定し、総合編成チャンネル新規開局の許可を与えた。しかし、こうした動きに反対する野党やメディア研究者、それに、市民団体の一部からは、選定過程にお

ける透明性の問題についての批判が出た<sup>1)</sup>。

そこで本稿では、総合編成チャンネルスタート1年を機に、新規事業者の選定をめぐる問題、および総合編成チャンネルの番組編成の現状を通じて、政策が当初の目的を実現できたのかを検証し、今後の課題を考察する。なお韓国政府は、総合編成チャンネルと同時に、報道分野の放送番組を専門的に編成する「報道専門チャンネル」の選定も実施したが、本稿では、今回初めて導入され、地上放送に匹敵するチャンネルとして注目を集めた、総合編成チャンネルに限定して取り上げた。

## 〈構成〉

1. 総合編成チャンネルとは
2. 所有規制緩和とチャンネル選定作業
3. チャンネル選定の審査
4. 総合編成チャンネルの概要
5. 編成の特色
6. 今後の課題

### 1. 総合編成チャンネルとは

「総合編成」とは、韓国の現行の放送法第2条で「報道・教養・娯楽など多様な放送分野相互間に調和をなすよう放送番組を編成する」と定義されている。ケーブルテレビ事業に「総合編成」という規定が初めて導入されたのは2000年に施行された現行の放送法である「統合放送法」からである。この統合放送法は、ケーブルテレビを規定していた「総合有線放送法」や地上放送のみを規定していた「放送法」などを統合したもので、数次の改正を重ねつつ現在に至っている。

総合有線放送法では、ケーブルテレビで放

送するための番組を供給する事業「番組供給業」と、これを行う事業者、すなわちコンテンツプロバイダーの「番組供給者」という概念だけが規定されており、この中でニュース専門チャンネルだけは他のチャンネルと区別して、所有や兼業規制の適用対象とした。これに対し、統合放送法では、ケーブルテレビにおいて、「専門編成（特定放送分野の放送番組を専門的に編成すること）」と「総合編成（報道・教養・娯楽など多様な放送分野相互間に調和をなすよう放送番組を編成すること）」とに、それぞれ初めて規定された。

放送法施行令第53条第1項第2号において、総合編成チャンネルは、ケーブルテレビや衛星放送での送信が法律で義務付けられている。韓国ではケーブルテレビや衛星放送の普及率が全世帯の約9割と高いため、新たなメディア展開を模索する新聞社は、総合編成チャンネルに多大な関心を寄せ、放送事業への新規参入を図ったのである。しかし、報道・教養・娯楽など全ての分野を扱うことができるため、総合編成チャンネルは、番組編成に関する法律上の制約を受けており、放送法第69条第2項では「総合編成を行う放送事業者は、政治・経済・社会・文化など各分野の事項が均衡に表現できるようにしなければならない」と規定し、また、同条第3項では「総合編成を行う放送事業者は、放送番組の編成において大統領令が定める基準により報道・教養および娯楽に関する放送番組を含めなければならない、その放送番組の間に調和が取れるよう編成しなければならない。この場合、大統領令が定める主な視聴時間帯（以下、主視聴時間帯という）には、特定の放送分野の放送番組に偏ってはならない」と規定している。ここでいう主

視聴時間帯とは、放送法施行令第50条第3項によって、平日の午後7時から午後11時まで、土曜日・日曜日および公休日の午後6時から午後11時まで、と定められている。

このほか、同条第1項第1号では「テレビ番組およびラジオ番組の場合、娯楽に関する放送番組を、当該チャンネルの毎月全放送時間の100分の50以下で編成すること」と、具体的な数値も定められている。

このように総合編成チャンネルは、法律上は導入されたものの、どのような手続きを経て承認するかといった点にまではふれられなかった。また、権限を持っていた放送委員会(当時、放送行政を所管していた独立行政組織)は、総合編成チャンネルの設置に向けて特に積極的に動くとはしなかった<sup>2)</sup>。

## 2. 所有規制緩和と チャンネル選定作業

2008年2月に経済の再生・活性化を掲げるイ・ミョンバク政権が発足すると、総合編成チャンネルをめぐる風向きが変わりはじめた。メディア政策に関して、新聞と放送の相互所有規制を緩和することで新たな投資や雇用の創出をうながそうというのがその理由であった。保守系与党ハンナラ党(現セヌリ党)は、新聞社と大企業の放送事業参入を可能にするため、所有規制の緩和を図ろうと、メディア関連法の改正作業に本格的に着手した。地上放送各社による放送市場の寡占状態を解消するなどして、メディア産業の競争力を高めようとしたのである。

これに対して野党側は、韓国の手新聞社はいずれもイ・ミョンバク政権寄りであるとの

認識に立っており、メディア関連法の改正によって新聞社や大企業が放送界を支配するようになれば、新聞と放送の言論が均一化することで、かえって世論の多様性が脅かされ、放送局による政権批判も封じられるとして、法律の改正には反対の立場をとった。

与野党は2008年末から2009年上半期にかけて、メディア関連法改正案の処理をめぐる国会を舞台に激しく対立し、乱闘による負傷者まで出る事態になった。しかし、結果的には与野党双方が妥協点を見いだせないまま2009年7月、国会において与党ハンナラ党議員たちによる投票が強行され、メディア関連の改正3法案(新聞法、放送法、IPTV法)が可決された<sup>3)</sup>。こうして、新聞社や大企業の放送事業参入が可能となった。そして、韓国を代表する新聞社が次々に名乗りを上げた。

一方、韓国の主要な大企業は韓国メディアの取材に対して、「総合編成チャンネルへの進出は検討していない」との態度を示した。大企業が消極的な最大の理由は、放送法を含むメディア関連法改正については野党や一部市民団体などが強く反発しており、「政治的な対立に巻き込まれたくない」ためであった。このほか、「参入を目指す大手新聞社との摩擦を起したくない」という意見や、景気の先行きに対する不透明さが続くなか、「経験がなくリスクも大きい新規事業に参入する時期ではない」「放送事業の将来性がはっきりしない」などの意見もあった<sup>4)</sup>。

翌2010年、イ・ミョンバク政権発足直後に設立された、メディア行政を所管する大統領直属機関の「放送通信委員会」(Korea Communications Commission, 以下KCC)は、法律の改正を受けて、総合編成チャンネル

の選定を本格化した。事業者の選定基準などをめぐっては、委員（計5人）のうちの野党側委員2人の反対を抑え、与党側委員の主導で進められた。

総合編成の選定に関する詳細審査基準と日程を決定した2010年11月10日のKCC全体会議では、野党側委員が会議から退席するという形で、強硬に反発する姿勢を示した。このうち、イ・ギョンジャ（李京子）副委員長は、総合編成に関する議論が始まる前に退席し、ヤン・ムンソク（梁文錫）委員も、選定の日程と関連した議決の直前に退席した<sup>5)</sup>。この場で決まった審査基準の詳細については後述するが、項目は大きく分けて「放送の公的責任、公正性、公益性の実現可能性」「放送番組の許画、編成および制作企画の適切性」「組織および人事運営など経営計画の適正性」「財政および技術的能力」「放送発展のための支援計画」の5つから成っていた<sup>6)</sup>。

KCCは11月30日と12月1日の両日、総合編成チャンネルの事業申請を受け付け、総合編成チャンネルにはMBN（当時の名称はMBS。以下、MBNを用いる。最大株主は毎日経済新聞社）、チャンネルA（最大株主は東亜日報社）、HUB（最大株主は韓国経済新聞社）、CUN（最大株主はアクリル繊維メーカーの泰光産業）、TV朝鮮（当時の名称はCSTV。以下、TV朝鮮を用いる。最大株主は朝鮮日報社）、JTBC（当時の名称はjTBC。最大株主は中央メディアネットワーク）の6社が申請を行った<sup>7)</sup>。

審査は12月23日から30日にかけて、前KCC常任委員のイ・ビョンギ（李秉基）ソウル大学教授を審査委員長に、放送、経済・経営、会計、法律、技術、市民、その他の分野など計14人の専門家らによって行われた<sup>8)</sup>。

選定にあたっては、研究者の間から、放送市場の過当競争を避けるため事業者は1社が最も望ましく、多くても2社を超えてはならないといった声が上がっていたが<sup>9)</sup>、KCCは同月31日、総合編成チャンネル使用事業者として申請のあった6社のうちMBN、チャンネルA、TV朝鮮、JTBCの4社を選定したことを発表した<sup>10)</sup>。

その後、選定された各社は1年近くの間、人材や機材の確保などの準備を行い、2011年12月1日に総合編成チャンネル4社が開局した。

### 3. チャンネル選定の審査

KCCが総合編成チャンネル使用事業者として、申請した6社のうち4社を選定した結果について、選定からもれた韓国経済新聞とテグアン（泰光）の2社は、テグアンが選定結果発表当日に「残念だ」との反応を示したのみで、基本的には両社とも、何ら言及をしなかった<sup>11)</sup>。また、メディア研究者である、チェ・ヨンムク（崔栄黙）ソンゴンフェ（聖公会）大学教授は、今回選定された4社のバックにいる新聞社は、新聞の社会的影響力の大きさにおいて上位の4社であるといえ、メディアの影響力の順序通りに事業権を与えたことになる、としたうえで、「強いメディアを後押しする形の支援を通して、放送市場を再編しようとする政策的な意志が込められた審査の結果」であると論評した<sup>12)</sup>。

しかし、その選定についての詳細な説明がなかったため、KCCは説明責任を果たしていないとする批判の声も上がった。市民団体の一部は、選定過程における韓国政府の情報公開拒否判断に対して訴訟を起し、裁判所は審査資料や議事録など、選定過程における一切の資料を公開するよう命じた<sup>13)</sup>。

## 総合編成チャンネルの審査結果

こうした経緯を経てKCCが公開することになった『総合編成・報道専門PP承認白書』を基に、総合編成チャンネルの審査結果(表1)を見ていく。審査事項は大きく5つに分類されており、さらにそれぞれが細分化され、合わせて44の「細部審査項目」に分類されている。

大きく5つに分類された項目とは「放送の公的責任、公正性、公益性の実現可能性」「放送番組の計画、編成および制作企画の適切性」「組織および人事運営など経営計画の適正性」「財政および技術的能力」「放送発展のための支援計画」であり、このうち「財政および技術的能力」については客観的な評価が可能な「計量」項目が6つあるが、それ以外は大半が非計量項目、すなわち質的審査項目である。今回、選定された4社は、「財政および技術的能力」以外の大項目において点数を伸ばしていた。

次に、「細部審査項目」を基準に見ていく。全44項目中、「計量」項目は9項目である。この9項目は「構成株主重複参与」「最初の納入資本金規模の適正性」「自己持分純利益率」「負債比率」「総資産増加率」「現金および現金性資産と短期金融商品合計対投資(出資)金額の適正性」「自己資本対投資(出資)金額の適正性」「申請法人および主要株主の信用等級」「政府に対する出捐金規模の適正性」であり、これらの項目に限定して獲得した総得点数を高い順に列挙すると、CUN205.74点、JTBC200.60点、チャンネルA190.51点、MBN186.54点、TV朝鮮184.20点、HUB183.28点となる。1位のCUNは2位のJTBCより5点以上も得点が高いが、結果的には選定からもれている。

これについて表からは、質的審査項目での評価点が低かったことが明らかであるものの、

KCCは具体的にどういった点に問題があったのかまでは明らかにしていない。

## 4. 総合編成チャンネルの概要

総合編成チャンネル4社の主要株主を掲げた(表2)。現時点において対外的に公開されているのは、総合編成チャンネル選定時(2010年12月31日)に発表されたものである<sup>14)</sup>。

### MBN

MBNは、これまで報道専門チャンネルとして運営されてきたチャンネルが、総合編成チャンネルとして再スタートしたものである。資本金3,950億ウォン(約210億円)で、主要株主は毎日経済新聞社(12.63%)と毎経共済会(2.77%)、毎経新聞社社友会(2.32%)となっている。また、4位には毎経メディアグループの会長で、MBNの代表でもあるチャン・デファン(張大煥)氏が名を連ねるなど、毎経メディアグループの関係者が全体の約2割(21.32%)を保有している。このほか、日本からも日本経済新聞社(1.00%)が資本参加している。

代表的な番組には、メインニュースの『MBNニュース8』のほか、酒文化、健康の秘けつなどについて、各分野に詳しい人々が、知っていると役に立つ情報を教えてくれる教養番組『固守の秘法黄金卵』、視聴者たちの苦しい心の内を大根の水キムチ「トンチミ」のようにすっきりさせてくれるトークショー番組『憂さ晴らしショー トンチミ』などがある。

### JTBC

JTBCは資本金4,220億ウォン(約320億円)で、主要株主は中央メディアネットワーク

表1 総合編成チャンネル審査結果表

審査事項	審査項目	細部審査項目	配点	MBN	チャンネルA	HUB	CUN	TV朝鮮	JTBC
総得点			1,000	808.07	832.53	770.18	753.11	834.93	850.79
1. 放送の公的責任、公正性、公益性の実現可能性			250	207.80	212.24	198.94	184.02	188.21	215.79
1-1. 放送の公的責任、公正性、公益性の実現計画			70	57.36	60.72	53.72	49.45	60.45	60.18
1-1-1. 放送の公的責任実現方案の適正性			30	24.36	26.45	23.09	21.36	26.00	25.91
1-1-2. 放送の公正性確保方案の適正性			20	16.36	17.00	15.27	13.91	17.36	17.27
1-1-3. 放送番組の公益性確保方案の適正性			20	16.64	17.27	15.36	14.18	17.09	17.00
1-2. 地域、社会、文化的寄与度			70	57.54	57.36	55.18	53.27	62.00	59.72
1-2-1. 社会的寄与実績および計画の優秀性			30	24.64	24.73	24.73	22.18	26.27	25.27
1-2-2. 地域的寄与実績および計画の優秀性			20	16.45	16.45	15.27	14.82	17.82	17.45
1-2-3. 文化的寄与実績および計画の優秀性			20	16.45	16.18	15.18	16.27	17.91	17.00
1-3. 申請法人の適正性			60	52.00	51.52	50.04	45.21	53.03	52.98
1-3-1. 申請法人および株主構成の適正性			25	20.55	20.82	19.73	16.73	21.45	21.55
1-3-2. 申請法人および主要株主の健全性			20	16.45	16.64	15.55	13.82	16.82	17.00
1-3-3. 構成株主重複率(計量)			15	15.00	14.06	14.76	14.66	14.76	14.43
1-4. 視聴者利益実現方案			50	40.90	42.64	40.00	36.09	42.73	42.91
1-4-1. 少数視聴者グループ支援方案の優秀性			20	16.18	17.18	16.36	14.45	17.36	17.00
1-4-2. 視聴者参与方案の適正性			15	12.27	12.82	11.91	10.73	12.64	13.00
1-4-3. 視聴者苦情処理計画の適正性			15	12.45	12.64	11.73	10.91	12.73	12.91
2. 放送番組の計画、編成および制作企画の適切性			250	204.28	212.82	193.08	180.56	215.72	216.18
2-1. 放送番組の企画、編成計画			90	73.82	77.10	68.99	63.37	78.45	78.27
2-1-1. 放送番組の企画、編成計画の優秀性			35	28.55	29.55	26.45	24.64	30.45	30.27
2-1-2. 放送番組の企画、編成の独創性			25	20.91	21.91	19.18	17.00	22.27	22.18
2-1-3. 放送番組の編成の自律性			30	24.36	25.64	23.36	21.73	25.73	25.82
2-2. 放送番組の需給計画			80	64.00	67.45	61.64	59.46	68.00	68.91
2-2-1. 放送番組の自主制作計画の適切性			35	28.27	29.27	26.91	25.82	30.45	30.45
2-2-2. 放送番組の外注制作計画の適切性			30	23.91	25.91	23.18	22.73	24.73	25.64
2-2-3. 放送番組の購買計画の適切性			15	11.82	12.27	11.55	10.91	12.82	12.82
2-3. 放送番組制作協力計画			80	66.46	68.27	62.45	57.73	69.27	69.00
2-3-1. 放送番組制作社との協力計画の適正性			35	28.55	29.73	27.45	25.00	30.36	30.09
2-3-2. 戦略的協力計画の優秀性			25	20.82	21.36	19.45	18.00	21.64	21.55
2-3-3. 放送番組制作協力計画の放送事業活性化寄与度			20	17.09	17.18	15.55	14.73	17.27	17.36
3. 組織および人事運営など経営計画の適正性			200	163.12	168.29	143.57	155.08	155.94	171.47
3-1. 事業推進計画			30	24.54	25.82	22.18	20.63	25.91	25.91
3-1-1. 市場展望および経営戦略の適正性			15	12.45	13.18	11.18	10.27	13.18	12.82
3-1-2. グローバルメディア企業としてのビジョンおよび戦略の優秀性			15	12.09	12.64	11.00	10.36	12.73	13.09
3-2. 組織および人事運営計画			30	24.72	25.73	23.36	21.09	25.73	25.37
3-2-1. 組織および人材構成の適正性			15	12.36	13.09	11.91	10.45	12.73	12.73
3-2-2. 人的確保および教育訓練計画の適正性			15	12.36	12.64	11.45	10.64	13.00	12.64
3-3. 納入資本金規模			60	47.40	48.91	37.20	54.00	37.20	50.64
3-3-1. 最初の納入資本金規模の適正性(計量)			60	47.40	48.91	37.20	54.00	37.20	50.64
3-4. 資金調達および運営計画			35	29.09	29.55	25.64	27.27	29.28	30.73
3-4-1. 資金調達計画の適正性			20	16.73	16.91	14.09	16.09	16.73	17.82
3-4-2. 資金運営計画の適正性			15	12.36	12.64	11.55	11.18	12.55	12.91
3-5. 事業性分析			15	12.27	12.73	11.82	11.09	12.27	13.00
3-5-1. 推定財務諸表および事業性分析の適正性			15	12.27	12.73	11.82	11.09	12.27	13.00
3-6. 経営の透明性、効率性			30	25.10	25.55	23.37	21.00	25.55	25.82
3-6-1. 経営の透明性確保方案			15	12.55	12.82	11.82	10.36	12.82	12.64
3-6-2. 経営の効率性確保方案			15	12.55	12.73	11.55	10.64	12.73	13.18
4. 財政および技術的能力			200	146.68	149.81	150.86	155.35	154.70	158.26
4-1. 財政的能力			90	62.95	63.02	69.83	66.31	62.16	73.02
4-1-1. 自己持分純利益率(計量)			30	19.73	18.42	22.48	22.15	19.98	22.82
4-1-2. 負債比率(計量)			30	24.95	25.63	29.30	26.94	23.91	25.99
4-1-3. 総資産増加率(計量)			30	18.27	18.97	18.05	17.22	18.27	24.21
4-2. 資金出資能力			60	41.19	44.52	41.49	50.77	50.08	42.51
4-2-1. 現金および現金性資産と短期金融商品合計対投資(出資)金額の適正性(計量)			15	9.00	8.95	6.23	10.58	12.55	9.93
4-2-2. 自己資本対投資(出資)金額の適正性(計量)			15	10.80	11.59	10.09	13.87	12.96	9.93
4-2-3. 申請法人および主要株主の信用等級(計量)			30	21.39	23.98	25.17	26.32	24.57	22.65
4-3. 技術的能力			50	42.54	42.27	39.54	38.27	42.46	42.73
4-3-1. 放送施設設置、運営計画			30	25.45	25.45	24.18	23.18	25.64	25.64
4-3-2. 放送技術確保および活用計画			20	17.09	16.82	15.36	15.09	16.82	17.09
5. 放送発展のための支援計画			100	86.19	89.37	83.73	78.10	90.36	89.09
5-1. 放送発展寄与計画			40	33.00	34.46	31.73	28.91	35.36	34.82
5-1-1. 放送産業発展寄与計画の優秀性			25	20.45	21.64	19.91	18.18	22.27	21.82
5-1-2. 有料放送市場活性化寄与計画の優秀性			15	12.55	12.82	11.82	10.73	13.09	13.00
5-2. コンテンツ産業育成、支援計画			40	33.19	34.91	32.00	29.19	35.00	34.27
5-2-1. コンテンツ産業育成計画の優秀性			20	16.64	17.55	16.09	14.64	17.45	17.27
5-2-2. コンテンツ産業寄与計画の優秀性			20	16.55	17.36	15.91	14.55	17.55	17.00
5-3. 出資金			20	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
5-3-1. 政府に対する出資金規模の適正性(計量)			20	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00

表2 総合編成チャンネル主要株主

チャンネル名	納入資本金	主要株主 (1-3位)
MBN	3,950 億 ウォン	毎日経済新聞社 (12.63%)
		毎経共済会 (2.77%)
		毎経新聞社社友会 (2.32%)
JTBC	4,220 億 ウォン	中央メディアネットワーク (25.00%)
		DY アセット (5.92%)
		中央日報社 (5.00%)
TV 朝鮮	3,100 億 ウォン	朝鮮日報社 (20.00%)
		Too Capital, LLC (15.00%)
		大韓航空 (9.70%)
チャンネル A	4,076 億 ウォン	東亜日報社 (29.32%)
		ダハム・イーテック (6.13%)
		トファ(都和) 総合技術公社(5.89%)

(25.00%)、DYアセット(5.92%)、中央日報社(5.00%)となっている。筆頭株主の中央メディアネットワークは、ホン・ソクヒョン(洪錫炫)中央日報社会長が個人資金により設立した会社である。JTBCは中央日報系であるが、この中央日報は1965年、サムスン(三星)グループの初代総裁によって創刊された歴史を持つ新聞社である。1999年にはサムスン系列から離れたものの、JTBCの株主にはサムスンとの関係が深い企業も加わっている。例えばDYアセットは韓国証券市場コスダック(KOSDAQ)の上場企業SFAの最大株主(33.06%)であるが、このSFAは1998年にサムスン航空(現サムスンテックウイン)から分社したディスプレイ機器メーカーで、サムスン電子(10.15%)が二大株主である<sup>15)</sup>。このほか、韓国国外から、テレビ朝日(3.08%)やTurner Asia Pacific Ventures Inc(2.64%)などの資本が入っている。

代表的な番組には、2012年11月から放送時

間を1時間前倒しし、午後8時50分からのスタートになった看板ニュース『JTBC NEWS9』、子どもたちのために生涯を犠牲にした父母の話で、親になろうとする子どもたちがその愛を学んでいくという週末ドラマ『子なしが最高(無子息 上八字)』などがある。

## TV 朝鮮

TV朝鮮は資本金3,100億ウォン(約230億円)で、主要株主は朝鮮日報社(20.00%)、Too Capital, LLC(15.00%)、大韓航空(9.70%)となっている。4位のプヨン(富栄)住宅(5.5%)の持分を合わせると、主要株主の上位4社で、過半数の株式を保有していることになる。総合編成チャンネル各社の主要株主を見ると、財閥系大企業の資本参加が少ないといった特徴が見られたが、ハンジン(韓進)グループ中核企業の大韓航空のケースは例外である。

代表的な番組には、2012年9月の改編によりニュースと時事番組が統合してスタートした『TV朝鮮ニュースショー・パン』、北朝鮮の今を伝える『北韓サイドストーリー』などがある。

## チャンネル A

チャンネルAは資本金4,076億ウォン(約310億円)で、主要株主は東亜日報社(29.32%)、ダハム・イーテック(6.13%)、トファ(都和)総合技術公社(5.89%)となっている。主要株主の上位5社で、過半数の株式を保有している。

代表的な番組には、メインニュースの『ニュースA』のほか、消費者が知らなかった「食べ物」の生産、流通、消費と関連した隠された真実、裏話を伝える『イ・ヨンドンPDの食べ物Xファイル』などがある。

## 5. 編成の特色

編成上のバランスといった点に留意しつつ、一例として、総合編成チャンネルの中では、比較的視聴されているチャンネルであるMBNとJTBCの編成表を分析した。韓国では、2012年12月19日投開票の大統領選挙の候補者登録が11月26日に締め切られ、翌27日から公式に選挙運動がスタートした。そのため本稿では、大統領選挙の影響による番組編成上の変化を最小限に抑えるため、2012年11月19日から25日までの7日間を分析対象とした。

### MBNの編成

MBNの編成表にしたがって、番組分野別の編成比率について全放送時間および主視聴時間帯ごとに見ていく。まず、全放送時間については、1週間あたりの総放送時間数1万80分のうち報道番組の比率は53.6% (5,400分)、教養番組は36.0% (3,630分)、娯楽番組は10.4% (1,050分)である。次に、主視聴時間帯については、平日の午後7時から午後11時まで、土曜日と日曜日の午後6時から午後11時までの総放送時間数1,800分のうち報道番組の比率は25.0% (450分)、教養番組は65.0% (1,170分)、娯楽番組は10.0% (180分)となっている。

平日に関しては、早朝4時50分に始まる『グッドモーニングMBN 1部』から夕方6時までの間、ほぼ生放送による報道を行っているのが、MBNの特徴である。その一方で、主視聴時間帯の放送内容は教養番組が主体である。

総合編成チャンネルに対しては、全体的に再放送が多いとの問題点が指摘されていた。例えば、韓国の国会文化体育観光放送通信

委員会のユン・グァンソク(尹官石)委員(野党、民主統合党)の調査によると、2011年12月から2012年7月までの期間中、全体編成に占める再放送比率は、地上放送が20%前後であったのに対して、総合編成チャンネルではMBNが41.0%、JTBCが55.1%、TV朝鮮が55.9%、チャンネルAが54.6%といった数値が示された<sup>16)</sup>。

そこで、再放送比率の現状について、全放送時間および主視聴時間帯ごとに検討した。MBNの場合、全放送時間における再放送の比率は35.0% (3,530分)であり、ユン・グァンソク委員の調査で示された数値よりは再放送比率が低かった。その理由としては、視聴率の向上のために、2012年3月に編成を大幅に改善したことで、再放送比率も下がったと考えられる。MBNは他の総合編成チャンネルと比較すると再放送の比率が最も低い、これは午前から午後の時間帯にかけての生放送による報道番組の時間量が多いことに起因する。このことは、主視聴時間帯における再放送比率が40.6% (730分)と、全放送時間における比率より5%以上も高いことから明らかである。

本来、報道専門チャンネルであったMBNのケースでは、総合編成チャンネルに転換して教養番組や娯楽番組も扱うようになったが、視聴率の向上のために、生放送や初回放送の比率を高めるなどの改編を行った結果、再び報道番組が編成の中核を担うことになるといった現象が起きている。

### JTBCの編成

次に、JTBCの編成表にしたがって、番組分野別の編成比率について全放送時間およ



表3 MBN 編成表

MBN 週間編成表 (2012年11月19日～25日)

	11/19 (月)	11/20 (火)	11/21 (水)	11/22 (木)	11/23 (金)	11/24 (土)	11/25 (日)
0:00	0:00 私は自然だ ㊟	0:20 MBN 特集ドキュメンタリー〈馬、走る〉 ㊟	0:00 追跡死角地帯 ㊟	0:10 固守の秘法黄金卵 ㊟	0:10 私は自然だ ㊟	0:00 憂き晴らしショーンチミ ㊟	0:30 機密漏えい ㊟
1:00	1:00 現場ルポ・スクープ世界 ㊟	1:20 チョン・ウンガブの集中分析 ㊟	1:20 チョン・ウンガブの集中分析 ㊟	1:10 チョン・ウンガブの集中分析 ㊟	1:10 チョン・ウンガブの集中分析 ㊟	1:00 松 ㊟	1:20 追跡死角地帯 ㊟
2:00	2:00 ヒューマンドキュメンタリー・生きていくのは ㊟	2:30 現場ルポ・スクープ世界 ㊟	2:00 松 ㊟	2:10 ヒューマンドキュメンタリー・生きていくのは ㊟	2:10 現場ルポ・スクープ世界 ㊟ 2:50 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟	2:00 ロードドキュメンタリー・おいしい旅行 ㊟	2:30 現場ルポ・スクープ世界スペシャル ㊟
3:00	3:00 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟ 3:30 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟	3:00 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟ 3:30 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟	3:00 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟ 3:30 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟	3:10 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟ 3:40 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟	3:20 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟ 3:50 MBN 特集ドキュメンタリー〈馬、走る〉 ㊟	3:00 MBN 特集ドキュメンタリー〈馬、走る〉 ㊟ 3:30 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟	3:00 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟
4:00	4:00 ドキュメンタリー M〈人間と犬〉 ㊟	4:00 ドキュメンタリー M〈南アフリカ野生動物、岐路に立つ〉 ㊟	4:00 ドキュメンタリー M〈北極熊、水の上を歩きたい〉 ㊟	4:10 現場ルポ・スクープ世界 ㊟		4:00 アニメドキュメンタリー・映像旅行 ㊟ 4:30 ボバイ八道遊覧記 ㊟	4:00 松 ㊟
4:50	グッドモーニング MBN 1部 ㊟	グッドモーニング MBN 1部 ㊟	グッドモーニング MBN 1部 ㊟	グッドモーニング MBN 1部 ㊟	グッドモーニング MBN 1部 ㊟		
5:00	5:30 グッドモーニング MBN 2部 ㊟	5:30 グッドモーニング MBN 2部 ㊟	5:30 グッドモーニング MBN 2部 ㊟	5:30 グッドモーニング MBN 2部 ㊟	5:30 グッドモーニング MBN 2部 ㊟	5:30 The CEO ㊟	5:00 開かれたTV開かれた世界 ㊟
6:00						6:00 MBN ニュース ㊟	6:00 リアルドキュメンタリー息 ㊟
7:00	7:00 生放送毎日経済 ㊟	7:00 生放送毎日経済 ㊟	7:00 生放送毎日経済 ㊟	7:00 生放送毎日経済 ㊟	7:00 チョン・ウンガブの集中分析 ㊟	7:00 私は自然だ ㊟	7:00 時事コンサート 政治 in ㊟
8:00	8:00 MBN ニューストゥデー 1部 ㊟	8:00 MBN ニューストゥデー 1部 ㊟	8:00 MBN ニューストゥデー 1部 ㊟	8:00 MBN ニューストゥデー 1部 ㊟	8:00 憂き晴らしショーンチミ ㊟	8:00 固守の秘法黄金卵 ㊟	8:00 ボバイ八道遊覧記 ㊟
9:00	9:00 MBN ニューストゥデー 2部 ㊟	9:00 MBN ニューストゥデー 2部 ㊟	9:00 MBN ニューストゥデー 2部 ㊟	9:00 MBN ニューストゥデー 2部 ㊟	9:00 MBN ニューストゥデー ㊟	9:00 MBN ニュースワイド ㊟	9:00 MBN ニュースワイド ㊟
10:00	10:00 ニュース広場 1部 ㊟	10:00 ニュース広場 ㊟	10:00 ニュース広場 ㊟	10:00 ニュース広場 ㊟	10:00 ニュース広場 1部 ㊟	10:00 MBN ニュースワイド ㊟	10:00 MBN ニュースワイド ㊟
11:00	11:00 ニュース広場 2部 ㊟	11:00 放送記者クラブ招請討論会ームン・ジェイン候補 ㊟	11:00 放送記者クラブ招請討論会ーアン・チョルス候補 ㊟	11:00 放送記者クラブ招請討論会ーパク・クネ候補 ㊟	11:00 ニュース広場 2部 ㊟	11:00 MBN ニュースワイド ㊟	11:00 MBN ニュースワイド ㊟
12:00	12:00 MBN ニュース ㊟	12:00 MBN ニュース ㊟	12:00 MBN ニュース ㊟	12:00 MBN ニュース ㊟	12:00 MBN ニュース ㊟	12:00 ボバイ八道遊覧記 ㊟	12:00 私は自然だ ㊟
13:00	13:00 ニュース 1 1部 ㊟	13:00 ニュース 1 1部 ㊟	13:00 ニュース 1 1部 ㊟	13:00 ニュース 1 1部 ㊟	13:00 ニュース 1 ㊟	13:00 固守の秘法黄金卵 ㊟	13:00 憂き晴らしショーンチミ ㊟
14:00	14:00 ニュース 1 2部 ㊟	14:00 ニュース 1 2部 ㊟	14:00 ニュース 1 2部 ㊟	14:00 ニュース 1 2部 ㊟	14:00 時事コンサート 政治 in ㊟	14:20 固守の秘法黄金卵スペシャル ㊟	14:00 MBN ニュース特報 ㊟
15:00	15:00 ニュース M 1部 ㊟	15:00 ニュース M 1部 ㊟	15:00 ニュース M 1部 ㊟	15:00 ニュース M 1部 ㊟	15:00 ニュース M 1部 ㊟	15:00 MBN ニュースワイド 1部 ㊟	15:00 MBN ニュースワイド 1部 ㊟
16:00	16:00 ニュース M 2部 ㊟	16:00 ニュース M 2部 ㊟	16:00 ニュース M 2部 ㊟	16:00 ニュース M 2部 ㊟	16:00 ニュース M 2部 ㊟	16:00 MBN ニュースワイド 2部 ㊟	16:00 MBN ニュースワイド 2部 ㊟ 16:50 チョン・ウンガブの集中分析 ㊟
17:00	17:00 チョン・ウンガブの集中分析 ㊟	17:00 チョン・ウンガブの集中分析 ㊟	17:00 チョン・ウンガブの集中分析 ㊟	17:00 チョン・ウンガブの集中分析 ㊟	17:00 チョン・ウンガブの集中分析 ㊟	17:00 時事コンサート 政治 in ㊟	17:50 ドキュメンタリー M〈スーパーフィッシュ〉 ㊟
18:00	18:00 憂き晴らしショーンチミ ㊟	18:00 私は自然だ ㊟	18:00 憂き晴らしショーンチミ ㊟	18:00 固守の秘法黄金卵 ㊟	18:00 ロードドキュメンタリー・おいしい旅行 ㊟	18:00 現場ルポ・スクープ世界 ㊟	
19:00	19:00 現場ルポ・スクープ世界 ㊟	19:00 韓国人の食卓 ㊟	19:00 現場ルポ・スクープ世界 ㊟ 19:45 年金宝くじ 520 ㊟	19:00 ドキュメンタリー M〈極寒の地ーシベリアオイミヤコンの冬〉 ㊟	19:00 ドキュメンタリー M〈極寒の地ーダナキルの塩キャラバン〉 ㊟	19:00 ロードドキュメンタリー・おいしい旅行 ㊟	19:00 大ヒットの秘密 ㊟
20:00	20:00 MBN ニュース 8 ㊟	20:00 MBN ニュース 8 ㊟	20:00 MBN ニュース 8 ㊟	20:00 MBN ニュース 8 ㊟	20:00 MBN ニュース ニュース特報 ㊟	20:00 MBN ニュース 8 ㊟ 20:30 現場ルポ・スクープ世界スペシャル ㊟	20:00 MBN ニュース 8 ㊟
21:00	21:00 追跡死角地帯 ㊟	21:00 憂き晴らしショーンチミ ㊟	21:00 ヒューマンドキュメンタリー・生きていくのは ㊟	21:00 ドキュメンタリー M〈スーパーフィッシュ〉 ㊟	21:00 私は自然だ ㊟	21:00 ドキュメンタリー M〈スーパーフィッシュ〉 ㊟	
22:00	22:00 固守の秘法黄金卵 ㊟	22:00 ヒューマンドキュメンタリー・生きていくのは ㊟	22:00 私は自然だ ㊟	22:10 ロードドキュメンタリー・おいしい旅行 ㊟	22:00 現場ルポ・スクープ世界 ㊟	22:10 リアルドキュメンタリー息 ㊟	22:00 固守の秘法黄金卵 ㊟
23:00	23:00 固守の秘法黄金卵 ㊟	23:00 生活の再発見 ㊟	23:00 ドキュメンタリー M〈スーパーフィッシュ〉 ㊟	23:10 機密漏えい ㊟	23:00 大ヒットの秘密 ㊟	23:10 憂き晴らしショーンチミ ㊟	23:00 追跡死角地帯 ㊟

㊟ 報道, ㊟ 教養, ㊟ 娯楽, ㊟ 生放送, ㊟ 本放送, ㊟ 再放送。

表 4 JTBC 編成表

JTBC 週間編成表 (2012 年 11 月 19 日～ 25 日)

	11/19 (月)	11/20 (火)	11/21 (水)	11/22 (木)	11/23 (金)	11/24 (土)	11/25 (日)
0:00	(18 日 23:00-) ドクターの勝負 49 回(再) 0:10 イ・スグン キム・ピョンマンの上流社会 50 回(再)	0:00 神話放送 36 回(再)	0:00 ストーリーセラー あなたの 1 分 2 回(再)	0:50 2012 テックプラスフォーラム 3 回(再)	0:10 真実追跡者探査コード 38 回(再)	0:10 ビューティーアップ 6 回(再)	0:00 キム・ククチンの現場体当たり 15 回(再)
1:00	1:20 2013 WBC 日本対キューバ第 2 戦(再)	1:10 2012 テックプラスフォーラム 1 回(再)	1:00 2012 テックプラスフォーラム 2 回(再)	1:50 神話放送 36 回(再)	1:10 2012 テックプラスフォーラム 4 回(再)	1:10 詐欺師たち 3 回(再)	1:00 ポップコーンとナチョ 3 回(再)
2:00		2:10 2013 WBC ノバマ対コロンビア(再)	2:00 2013 WBC 台湾対ニュージーランド(再)		2:10 詐欺師たち 3 回(再)	2:10 2012 テックプラスフォーラム 5 回(再)	2:00 詐欺師たち 3 回(再)
3:00	3:15 韓国人の探求生活(再)			3:00 イ・スグン キム・ピョンマンの上流社会 50 回(再)	3:05 結婚戦争 3 回(再)	3:10 ストーリーセラー あなたの 1 分 2 回(再)	3:00 ビューマンドキュメンタリー あなたの話 32 回(再)
3:35	2013 WBC ブラジル対コロンビア(再)						
4:00	4:10 ショーキング 70 億 2 回(再)	4:10 ショーキング 70 億 4:50 イエローボックス スペシャル(再)	4:30 韓国人の探求生活(再) 4:50 芸能スクープ 37 回(再)	4:00 韓国人の探求生活(再) 4:40 70 億の生き方(再) 4:50 ポップコーンとナチョ 2 回(再)	4:05 イエローボックス 20 回(再)	4:00 JTBC プライム(再)	4:00 ショーキング 70 億 4:40 ゴルフマガジン - クラブハウス 4 回(再)
5:00	5:50 今日のすべての朝刊(再)	5:50 今日のすべての朝刊(再)	5:50 今日のすべての朝刊(再)	5:50 今日のすべての朝刊(再)	5:50 今日のすべての朝刊(再)	5:00 パラダイス生存記 2 回(再)	5:40 段ボール戦士 2 回(再)
6:00						6:00 ゴルフマガジン - クラブハウス 4 回(再)	6:10 ライフドキュメンタリー - あなたの 1 分 3 回(再)
7:00	7:00 JTBC ニュース 今週のスペシャルレポート(再)	7:00 イエローボックス 17 回(再) 7:50 2012 テックプラスフォーラム 2 回(再)	7:00 イエローボックス 18 回(再) 7:50 2012 テックプラスフォーラム 3 回(再)	7:00 イエローボックス 19 回(再) 7:50 2012 テックプラスフォーラム 4 回(再)	7:00 イエローボックス 20 回(再) 7:50 2012 テックプラスフォーラム 5 回(再)	7:00 ショーキング 70 億 3 回(再)	7:10 JTBC ニュース 今週のスペシャルレポート(再) 7:50 JTBC プライム 3 回(再)
7:40	2012 テックプラスフォーラム 1 回(再)						
8:00	8:30 韓国人の探求生活(再)	8:50 ビューマンドキュメンタリー あなたの話 32 回(再)	8:45 韓国人の探求生活(再)	8:40 70 億の生き方(再)	8:50 視聴者議会 50 回(再)	8:00 JTBC ニュース 特報(再)	8:50 芸能スクープ 38 回(再)
8:50	特別企画 - 一本化。民心はどこへ。湖南で道を問う(再)					8:30 ポップコーンとナチョ 3 回(再)	
9:00	9:50 芸能スクープ 37 回(再)	9:45 70 億の生き方(再)	9:15 子なしが最高 7 回(再)	9:20 私たちが結婚できるか 7 回(再)	9:20 私たちが結婚できるか 7 回(再)	9:30 ビューマンドキュメンタリー あなたの話 32 回(再)	9:50 力のある話 ショー 5 回(再)
9:55	2013 WBC ノバマ対ブラジル ファイナル(再)						
10:00			10:30 子なしが最高 8 回(再)	10:35 私たちが結婚できるか 8 回(再)	10:35 私たちが結婚できるか 8 回(再)	10:30 ドクターの勝負 49 回(再)	10:30 JTBC ニュース 特報(再)
10:55	大統領選挙候補 招聘討論会 - ムン・ジェイン(再)					10:50 イエローボックス スペシャル 4 回(再)	10:35 力のある話 ショー 5 回(再)
11:00						11:00 JTBC ニュース 特報(再)	10:50 ストーリーセラー あなたの 1 分 3 回(再)
11:50			11:50 正午の現場 MBN ニュース(再)	11:50 正午の現場 MBN ニュース(再)	11:50 正午の現場 MBN ニュース(再)	11:10 JTBC ニュース 特報(再)	11:50 正午の現場 MBN ニュース(再)
12:00	12:00 正午の現場 MBN ニュース(再)	12:45 正午の現場(再) 12:55 大統領選挙候補 招聘討論会 - ムン・ジェイン(再)	12:10 私たちが結婚できるか 7 回(再)	12:10 韓国人の探求生活(再) 12:20 ショーキング 70 億 3 回(再)	12:10 子なしが最高 7 回(再)	11:50 正午の現場 MBN ニュース(再)	12:10 私たちが結婚できるか 7 回(再)
12:20	ストーリーセラー あなたの 1 分 2 回(再)					12:25 キム・ククチンの現場体当たり 15 回(再)	
13:00	13:25 イ・スグン キム・ピョンマンの上流社会 50 回(再)		13:25 私たちが結婚できるか 8 回(再)	13:25 ドクターの勝負 49 回(再)	13:25 子なしが最高 8 回(再)	13:25 イ・スグン キム・ピョンマンの上流社会 50 回(再)	13:20 私たちが結婚できるか 8 回(再)
14:00	14:40 仁粹大妃 56 回(再)	14:00 ショーキング 70 億 14:40 仁粹大妃 57 回(再)	14:00 JTBC ニュース 特報(再) 14:10 仁粹大妃 58 回(再) 14:10 私たちが結婚できるか 8 回(再)	14:40 仁粹大妃 59 回(再)	14:40 仁粹大妃 60 回(再)	14:40 味覚スキャンダル 39 回(再)	14:30 70 億の生き方(再)
15:00	15:50 バク・ソソチの大統領疾走(再)	15:50 バク・ソソチの大統領疾走(再)	15:50 バク・ソソチの大統領疾走(再)	15:50 バク・ソソチの大統領疾走(再)	15:50 バク・ソソチの大統領疾走(再)	15:40 子なしが最高 7 回(再)	15:00 JTBC ニュース 特報(再)
16:00						16:50 子なしが最高 8 回(再)	16:20 子なしが最高 9 回(再)
17:00	17:00 JTBC ニュース イブニング(再)	17:00 JTBC ニュース イブニング(再)	17:00 JTBC ニュース イブニング(再)	17:00 JTBC ニュース イブニング(再)	17:00 JTBC ニュース イブニング(再)	17:00 JTBC ニュース イブニング(再)	17:40 JTBC 週末 ニュース(再)
17:20	70 億の生き方(再) 17:45 ドクターの勝負 49 回(再)	17:20 韓国人の探求生活(再) 17:40 イ・スグン キム・ピョンマンの上流社会(再)	17:30 韓国人の探求生活(再) 17:45 神の一手 12 回(再)	17:30 韓国人の探求生活(再) 17:55 味覚スキャンダル 39 回(再)	17:30 キム・ククチンの現場体当たり 15 回(再)		
18:00						18:30 ポップコーンとナチョ 3 回(再)	18:35 パティ・キムショー 7 回(再)
18:00						18:40 ライフドキュメンタリー - あなたの 1 分 3 回(再)	
19:00	19:00 イエローボックス 19 回(再) 19:50 ビューマンドキュメンタリー あなたの話 32 回(再)	19:00 イエローボックス 18 回(再) 19:50 結婚戦争 3 回(再)	19:00 イエローボックス 19 回(再) 19:50 ショーキング 70 億 3 回(再)	19:00 イエローボックス 20 回(再) 19:50 パラダイス生存記 2 回(再)	19:30 芸能スクープ 38 回(再)	19:40 イ・スグン キム・ピョンマンの上流社会 51 回(再)	19:35 神話放送 37 回(再)
20:00					20:20 JTBC ニュース 特報(再) 20:30 70 億の生き方(再)	20:50 子なしが最高 9 回(再)	20:45 子なしが最高 10 回(再)
20:50	JTBC NEWS 9 回(再)	JTBC NEWS 9 回(再)	JTBC NEWS 9 回(再)	JTBC NEWS 9 回(再)	JTBC NEWS 9 回(再)		
21:00	21:40 天気 & スポーツ(再)	21:40 天気 & スポーツ(再)	21:40 天気 & スポーツ(再)	21:40 天気 & スポーツ(再)	21:40 天気 & スポーツ(再)		
21:50	私たちが結婚できるか 7 回(再)	私たちが結婚できるか 8 回(再)	ムン・ジェイン - アップル TV 詩論(再)	21:50 詐欺師たち 3 回(再)			
22:00					22:40 天気 & スポーツ(再)	22:00 ストーリーセラー あなたの 1 分 3 回(再)	22:00 JTBC ニュース 特報(再)
23:00	23:00 詐欺師たち 3 回(再)	23:00 味覚スキャンダル 39 回(再)		23:00 キム・ククチンの現場体当たり 15 回(再) 23:10 JTBC ニュース 速報(再) 23:30 キム・ククチンの現場体当たり 15 回(再)	23:00 大韓民国教育委員会 1 回(再)	23:00 味覚スキャンダル 39 回(再)	23:00 ドクターの勝負 50 回(再)

◎ 報道, ◎ 教養, ◎ 娯楽。「ドラマ」と「芸能」は娯楽として扱った。JTBC のホームページには「その他」という項目があるが、番組内容を精査した上で報道、教養、娯楽のいずれかに振り分けた。[70 億の生き方] については「教養」に分類されている回と「芸能」に分類されている回があった。また、「芸能スクープ」は「芸能」ではなく、「教養」に分類されていた。これらについて本稿では、JTBC の分類に従った。生放送、再放送、JTBC のホームページには生放送は「生」、再放送は「再」と記載されている。それ以外の番組については本放送として取り扱った。

び主視聴時間帯ごとに見ていく。まず、全放送時間については、1週間あたりの総放送時間数1万80分のうち報道番組の比率は21.0% (2,115分)、教養番組は35.2% (3,550分)、娯楽番組は43.8% (4,415分)である。主視聴時間帯については、総放送時間数1,800分のうち報道番組の比率は32.5% (585分)、教養番組は32.8% (590分)、娯楽番組は34.7% (625分)となっている。

全放送時間および主視聴時間帯ごとの再放送比率であるが、まず、全放送時間における比率は46.1% (4,645分)であった。MBNと同様、再放送比率は下がってきているが、月曜日から水曜日にかけては4割以下であるのに対して、土曜日は6割を超えるなど、平日に比べ、土日の再放送比率はいまだに高いといった特徴が見られる。しかし、主視聴時間帯に限ると再放送比率は低く、木曜日21時50分から70分間の教養番組1本だけが再放送であり、比率に換算すると3.9%になる。

JTBCのケースでは、MBNとは対照的に、全放送時間の番組分野別編成比率が、高い

順に、娯楽 (43.8%)、教養 (35.2%)、報道 (21.0%)となっている。また、主視聴時間帯の番組分野別編成比率は、娯楽 (34.7%)、教養 (32.8%)、報道 (32.5%) とほぼ同程度の比率になっている。

放送法や放送法施行令などで定められた編成上のバランスを考慮すると、JTBCのほうが、総合編成の趣旨にかなっているが、平均視聴率に関してはMBNの後塵を拝している。

### 総合編成チャンネルの視聴状況

韓国の視聴率調査会社 AGB ニールセン・メディアリサーチによる2012年11月20日付の発表によると、2011年12月1日から2012年11月18日までの平均視聴率は、MBNが0.643% (全国有料放送加入世帯基準) を記録し、以下、JTBCの0.565%、チャンネルAの0.552%、TV朝鮮の0.432%と続いた。また、個別の番組の視聴率については、JTBCが高く、視聴率上位10番組のうち、1位から5位までを独占した。1位はJTBCが2012年6月12日に単独中継したブラジルワールドカップア

表5 総合編成チャンネル 番組視聴率トップ10

順位	番組	チャンネル	視聴率
1	ブラジルワールドカップアジア最終予選 韓国対レバノン	JTBC	7.529%
2	ブラジルワールドカップアジア最終予選 韓国対カタール	JTBC	3.184%
3	子なしが最高 (無子息 上八字)	JTBC	2.904%
4	妻の資格	JTBC	2.452%
5	あなたの話スペシャル	JTBC	2.183%
6	憂さ晴らしショー トンチミ	MBN	2.097%
7	アマゾンの涙 (再放送)	MBN	1.944%
8	固守の秘法黄金卵	MBN	1.943%
9	アマゾンの涙	MBN	1.938%
10	パダムパダムー彼と彼女の心拍音ー	JTBC	1.906%

2011年12月1日～2012年11月18日 (全国有料放送加入世帯基準)

ジア最終予選の韓国対レバノン戦で7.529%、2位はJTBCが前日に生中継した韓国対カタール戦で3.184%であった。3位はJTBC週末ドラマ『子なしが最高(無子息 上八字)』で2.904%、4位はJTBC水・木ドラマ『妻の資格』で2.452%であった<sup>17)</sup>。

この他の番組についても、6位の『憂さ晴らしショー トンチミ』や8位の『固守の秘法黄金卵』はバラエティーショー、10位の『パダムパダム』はドラマ、といったように、人気番組はスポーツ、ドラマ、バラエティーショーといった娯楽番組が占めている。ドラマを例にとると、2012年11月時点で、総合編成チャンネル4社中、JTBCだけが制作・編成をしているが、総合編成チャンネル全体としては、リスク負担が大きいドラマの編成を大幅に削減し、制作費負担の少ない時事・教養番組の編成を強化しているというのが実態である<sup>18)</sup>。

## 6. 今後の課題

MBNは、かつて報道専門チャンネルであった実績を活かして、生放送による報道番組を編成の中核に置き、他チャンネルとの差別化を図っている。一方、JTBCは、報道、教養、娯楽の各番組についてバランスのとれた編成を組みつつ、サッカー国際試合の単独中継やドラマの独自制作など、話題性のあるコンテンツによって視聴者の獲得を目指している。制作費用の負担は大きな課題であるが、現状においては、総合編成チャンネル中、唯一、ドラマ制作に取り組んでいる。

今回、チャンネル選定の審査結果表が公開されたのも、市民団体が請求活動を続けた結果、KCCが公開することになったからである。

その審査結果表からは、KCCが財政的な裏付けよりも質的評価を優先したことは読み取ることができるが、その質的な部分についての判断をどう行ったのかの説明責任が十分に果たされていない。社会に対して大きな影響力を持つ可能性のある総合編成チャンネルについては、より詳細な説明が求められる。

総合編成チャンネルの運営については、これまでのところ必ずしも順調には進んでおらず、平均視聴率も2011年12月の開局以降、1%に満たない状況が続く。こうした低調な視聴率は、影響力の低さとなって表れ、それゆえに、当初、保守系の新聞社にテレビ局の多くがコントロールされ、世論の多様性が脅かされることとして総合編成チャンネルの開局に反対していた人々の主張は少なくとも現時点では実感がともなうものとなっていない。また、韓国のメディア研究者からは、キム・ミンギ(金敏基) スンシル(宗実) 大学教授のように「投資がないため良い番組が出てこず、視聴率が落ちて広告が集まらないという悪循環に陥っている。自ら撤退戦略を立てねばならない」と、場合によっては総合編成チャンネルから撤退することも選択肢として考えるべきであるといった指摘も出ている<sup>19)</sup>。今後の事業の継続については、総合編成チャンネル各社の努力もさることながら、過当競争のリスクをおして一度に4社に許可を与えたKCCが責任をもって、政策を再検討する必要があるだろう。

(たなかのりひろ)

注：

- 1) 例えば、韓国政府の情報公開拒否判断に対して市民団体が起こした訴訟では、裁判所が審査資料や議事録など、選定過程における一切の資料を公開するようにとの判決が出ている。「総編不公正審査・特惠疑惑事実が明らかになるか」『ソウル新聞』2012年5月26日、9面(原文タイトルは「중편 불공정 심사·특혜 의혹 사실로 밝혀지나」)、を参照。
- 2) 「総合編成チャンネル導入‘波紋」『記者協会報』2009年2月25日、5面(原文タイトルは「종합편성 채널 도입 ‘파문」)。
- 3) この間の詳細については、拙稿「韓国におけるメディア所有規制の緩和」『放送研究と調査』(第59号第11号通巻702号、2009年11月、86-93頁)、を参照されたい。
- 4) 玉置直司「韓国における放送法改正の意義」『Asia Japan Journal』(5)、2010年3月、66頁、を参照。
- 5) 「総編選定細部基準日程議決‘速度戦」『韓国日報』2010年11月11日、8面(原文タイトルは「중편 선정 세부 기준 일정 의결 ‘속도전」)。
- 6) 「総編・報道 PP 承認細部審査基準主要内容」KCC 報道資料、2010年11月10日付の添付資料2(原文タイトルは「중편·보도 PP 승인 세부 심사 기준 주요내용」)。
- 7) 「総合編成・報道専門放送チャンネル使用事業承認申請法人現況」KCC 報道資料、2010年12月1日付の添付資料(原文タイトルは「종합편성·보도전문 방송채널사용사업 승인 신청법인 현황」)。
- 8) 「総合編成・報道専門放送チャンネル使用事業審査開始」KCC 報道資料、2010年12月23日付(原文タイトルは「종합편성·보도전문 방송채널사용사업 심사 시작」)。
- 9) 韓国放送学会主催の「放送コンテンツ産業活性化のための合理的チャンネル政策方案第2次討論会」における議論。「“総編事業者数をまず決定しなくては” …“義務送信は普遍的視聴権の次元”」『東亜日報』2010年7月24日、A6面(原文タイトルは「“중편 사업자 수 먼저 결정해야” … “의무전송은 보편적 시청권 차원”」)。
- 10) 「総合編成および報道専門放送チャンネル使用事業承認対象法人選定」KCC 報道資料、2010年12月31日付(原文タイトルは「종합편성 및 보도전문 방송채널사용사업 승인 대상법인 선정」)。
- 11) 「市民団体・選定もれ各社“放通委、情報公開しろ”」『京郷新聞』2011年1月6日、4面(原文タイトルは「시민단체·탈락사들 “방통위, 정보공개 하라”」)。
- 12) 「非計量評価項目で当落分かれ…審査の客観性について論議が起こるようだ」『韓国日報』2011年1月1日、4面(原文タイトルは「非계량 평가 항목서 당락 갈려…심사 객관성 논란 일 듯」)。
- 13) 「総編不公正審査・特惠疑惑事実が明らかになるか」『ソウル新聞』2012年5月26日、9面(原文タイトルは「중편 불공정 심사·특혜 의혹 사실로 밝혀지나」)。
- 14) 「総合編成および報道専門放送チャンネル使用事業承認対象法人現況」KCC 報道資料、2010年12月31日付の添付資料4(原文タイトルは「종합편성 및 보도전문 방송채널사용사업 승인 대상법인 현황」)。
- 15) 「総編株主の現況について」『京郷新聞』2011年1月3日、3面(原文タイトルは「중편 주주 현황 어떻게」)。
- 16) 「総編赤字数百億…視聴率0%台」『文化日報』2012年10月10日、27面(原文タイトルは「중편 적자 수백억…시청률 0% 대」)。
- 17) 「総編開局1年…平均視聴率0.548%」『ソウル新聞』2012年11月21日、25面(原文タイトルは「중편 개국 1년… 평균 시청률 0.548%」)。
- 18) 「‘バラ色の未来’ 夢見る総編、そして1年後」『記者協会報』2012年11月28日、5面(原文タイトルは「‘장밋빛 미래’ 꿈꾼 중편, 그리고 1년후」を参照)。
- 19) 「言論学者たち“総編退出可視圏”」『京郷新聞』2012年6月20日、21面(原文タイトルは「언론 학자들 “중편 퇴출 가시권”」)。